

滋賀県がん診療連携協議会 議事結果報告書

会 議 名	令和2年度 滋賀県がん診療連携協議会 第29回 地域連携部会																																																							
開 催 日 時	令和2年12月1日（金）																																																							
開 催 場 所	大津赤十字病院 6階会議室 →新型コロナウイルス感染拡大防止のためメールにて開催																																																							
出 席 者	<p><b>【部会員】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>大津赤十字病院</td> <td>廣瀬 哲朗（部会長）</td> </tr> <tr> <td>滋賀医科大学医学部附属病院</td> <td>村田 聡（副部会長）</td> </tr> <tr> <td>滋賀県立総合病院</td> <td>吉田 徹（副部会長）</td> </tr> <tr> <td>滋賀医科大学医学部附属病院</td> <td>服部 聖子</td> </tr> <tr> <td>大津赤十字病院</td> <td>徳谷 理恵</td> </tr> <tr> <td>滋賀県立総合病院</td> <td>三輪 真澄</td> </tr> <tr> <td>公立甲賀病院</td> <td>金 哲將</td> </tr> <tr> <td>彦根市立病院</td> <td>林 栄一</td> </tr> <tr> <td>市立長浜病院</td> <td>東出 俊一</td> </tr> <tr> <td>高島市民病院</td> <td>武田 佳久</td> </tr> <tr> <td>市立大津市民病院</td> <td>七里 泰正</td> </tr> <tr> <td>草津総合病院</td> <td>戸川 剛</td> </tr> <tr> <td>済生会滋賀県病院</td> <td>増山 守</td> </tr> <tr> <td>近江八幡市立総合医療センター</td> <td>土屋 邦之</td> </tr> <tr> <td>長浜赤十字病院</td> <td>原田 吉將</td> </tr> <tr> <td>東近江総合医療センター</td> <td>赤堀 浩也</td> </tr> <tr> <td>滋賀県医師会</td> <td>樋上 雅一</td> </tr> <tr> <td>滋賀県医師会</td> <td>小西 眞</td> </tr> <tr> <td>滋賀県歯科医師会</td> <td>吉田 智一</td> </tr> <tr> <td>滋賀県保健所長会</td> <td>寺尾 敦史</td> </tr> <tr> <td>滋賀県薬剤師会</td> <td>丹波 卯子</td> </tr> <tr> <td>滋賀県看護協会</td> <td>小川 薫子</td> </tr> <tr> <td>滋賀県歯科衛生士会</td> <td>村西 加寿美</td> </tr> <tr> <td>滋賀県がん患者団体連絡協議会</td> <td>天満 清央</td> </tr> <tr> <td>滋賀県健康医療福祉部</td> <td>野坂 明子</td> </tr> <tr> <td>滋賀県立総合病院</td> <td>木村 和馬</td> </tr> </table> <p><b>【事務局】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>大津赤十字病院</td> <td>加藤 理史</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">（敬称略）</p>		大津赤十字病院	廣瀬 哲朗（部会長）	滋賀医科大学医学部附属病院	村田 聡（副部会長）	滋賀県立総合病院	吉田 徹（副部会長）	滋賀医科大学医学部附属病院	服部 聖子	大津赤十字病院	徳谷 理恵	滋賀県立総合病院	三輪 真澄	公立甲賀病院	金 哲將	彦根市立病院	林 栄一	市立長浜病院	東出 俊一	高島市民病院	武田 佳久	市立大津市民病院	七里 泰正	草津総合病院	戸川 剛	済生会滋賀県病院	増山 守	近江八幡市立総合医療センター	土屋 邦之	長浜赤十字病院	原田 吉將	東近江総合医療センター	赤堀 浩也	滋賀県医師会	樋上 雅一	滋賀県医師会	小西 眞	滋賀県歯科医師会	吉田 智一	滋賀県保健所長会	寺尾 敦史	滋賀県薬剤師会	丹波 卯子	滋賀県看護協会	小川 薫子	滋賀県歯科衛生士会	村西 加寿美	滋賀県がん患者団体連絡協議会	天満 清央	滋賀県健康医療福祉部	野坂 明子	滋賀県立総合病院	木村 和馬	大津赤十字病院	加藤 理史
大津赤十字病院	廣瀬 哲朗（部会長）																																																							
滋賀医科大学医学部附属病院	村田 聡（副部会長）																																																							
滋賀県立総合病院	吉田 徹（副部会長）																																																							
滋賀医科大学医学部附属病院	服部 聖子																																																							
大津赤十字病院	徳谷 理恵																																																							
滋賀県立総合病院	三輪 真澄																																																							
公立甲賀病院	金 哲將																																																							
彦根市立病院	林 栄一																																																							
市立長浜病院	東出 俊一																																																							
高島市民病院	武田 佳久																																																							
市立大津市民病院	七里 泰正																																																							
草津総合病院	戸川 剛																																																							
済生会滋賀県病院	増山 守																																																							
近江八幡市立総合医療センター	土屋 邦之																																																							
長浜赤十字病院	原田 吉將																																																							
東近江総合医療センター	赤堀 浩也																																																							
滋賀県医師会	樋上 雅一																																																							
滋賀県医師会	小西 眞																																																							
滋賀県歯科医師会	吉田 智一																																																							
滋賀県保健所長会	寺尾 敦史																																																							
滋賀県薬剤師会	丹波 卯子																																																							
滋賀県看護協会	小川 薫子																																																							
滋賀県歯科衛生士会	村西 加寿美																																																							
滋賀県がん患者団体連絡協議会	天満 清央																																																							
滋賀県健康医療福祉部	野坂 明子																																																							
滋賀県立総合病院	木村 和馬																																																							
大津赤十字病院	加藤 理史																																																							
議 事 概 要	1. 滋賀県がん地域連携パス運用状況について <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 滋賀県がん地域連携パス運用状況                         <p>登録件数について、【資料1-1】は、2010年4月～2020年8月末のがんパス運用登録一覧表である。現在までにバリエーションや5年経過し、パス運用が終了しているものも含まれるが、合計2,521件、登録されている。</p> <p>年度別にグラフ化したもの【資料1-2】では、今年度（2020年度）値は推定の概算値だが、全体の登録件数は200件程度となり、かなり減少している。詳細に見て</p> </li> </ul>																																																							

みると【資料1-3】、胃がんの進行期パスが2019年度 29件 → 2020年度 10件と1/3に減少している。

施設別【資料1-4】では、前年度と比較し、10件以上増加した施設は、彦根市立病院のみ。10件以上減少しているのは、大津赤十字病院、長浜赤十字病院、東近江総合医療センターであった。

#### ○5年経過、バリエーションについて

5年経過、パス中止件数について（【資料2-1】）は、5年経過したものは587件、バリエーションとなりパス中止したものは、461件と全体の18.3%となっている。

パス中止のものを、胃がん・大腸がん、それぞれ「早期」「進行期」に分け、より詳細にみると（【資料2-2】）、胃がん進行期パスは中止率40%となり、再発経過を反映しているのか非常に高い。パス中止までの平均日数は、早期がんパスが長く、進行期がんパスはその約半分の日数となっている。

理由（【資料2-3、2-4】）は、早期がんパスについては、胃がん・大腸がんパス共に“患者・家族の都合”が約半数を占めており、この原因として考えられるのは、早期がんの場合、数年間、術後フォローで問題なく過ごされるとパススケジュールに則った受診をされなくなる患者さんが一定数存在すると考えられるので、パス開始より2～3年経過後にパス使用者や連携医療機関に対する聞き取りなどを行うのか、または、診療計画を見直す必要があるのか、ご意見を頂戴したい。

進行期がんパスは、「再発・転移」が半数以上を占めているが、連携診療が一旦途絶えても、「私のカルテ」の使用を継続していただけるようになっている。（各計画策定病院の事務局には通知済み）

また、理由において、“死亡”が多いが、がん疾患での死亡なのか、他疾患が原因の死亡なのか不明であるので、診療計画・フォローアップの正当性の検証のため事務局へのバリエーション報告様式を【資料3】のように変更したい。

分析方法・データ抽出方法について、ご提案等があれば、事務局にて可能であれば、随時実施していくので、部会員より、ご意見を頂戴したい。

## 2. 地域連携部会 今年度予定について

- ・アクションプランシートについて 【資料4】

今年度の目標として、がんパスの登録件数を年間240件（前年度並み）とする。

### 3. その他

各施設にアンケートを実施し、回答は以下のとおりです。

#### 【1】早期がんパス（胃・大腸）の患者・家族の都合によるパス中止の対応策 （術後2～3年後の聞き取りや診療計画の再検討等）

（市立長浜病院）

・当院では該当例の場合、既に（検査や予約等で）外来から連絡を入れるも意思疎通がはかれず、相手からの連絡待ちという形になる状況も多い。そのためパス中止について聞き取りを行う手段として、①他科に受診時に確認、②自宅に電話し本人あるいは家族に確認、③（連携先に通院されている場合は）連携先から本人家族に確認をしてもらっているが、②③の場合は特に対応に困るケースも多い。

また連携先のバリエーションシート返書率も100%ではなく、③の場合は、そもそも連携先に通院されているかどうかを確認してからになる。

・継続可能な手段として、早期がんパス（大腸がん）は診療計画の見直しを行い、2019年度大腸癌治療ガイドラインのサーベイランス指針に沿って、3年半と4年半の腫瘍マーカー測定は、連携先という形にして、通院負担を軽減してはどうか。また他のパス（肝癌や肺癌等）についても、省略できそうな部分があれば、少し間隔にゆとりをもたせることが検討できないかどうか。

・診療計画書の一部に、「計画策定病院または（および）連携先に1年以上通院歴がなく、患者の意向が確認できない場合、パスを中止することがある」と一文追記し、同意を得てはどうか。

（滋賀医科大学医学部附属病院）

・パス中止の理由の半数が、患者・家族の都合であるならば、術後2～3年後に患者に聞き取りを行うのが良いかと思えます。その際、がんパスのためだけに連携医療機関に受診している患者と、普段から別の疾患の定期フォローのために連携医療機関に受診している患者の内訳がわかる項目を設け、それぞれにおいてパス中止率の差があるのか、また、それぞれのパス中止の理由は何なのかをみていくのも一法かと考えます。

（滋賀県立総合病院）

・パス対象患者の判断について（パス適応患者に、年齢や理解度も加味して導入者を選定）  
・パス導入患者の2～3年後の外来受診時に聞き取り（中断理由、ご本人の感想、私のカルテについての意見、活用方法、受診時に提出されているか、など）  
・連携先医療機関の医師、及び、消化器外科医師への聞き取り（私のカルテ及びパス全体に関する意見、パス中断理由など）

（市立大津市民病院）

・残念ながら当院では、がんパスの使用件数が少なく、家族都合でのパス中止の経験がございません。（把握もできていない状況です。）

（東近江健康福祉事務所）

・診療計画の再検討を行ってもよいのでは。

(滋賀県薬剤師会)

- ・パス開始より2～3年後に聞き取りを実施するのがよいのではないのでしょうか。

(滋賀県歯科衛生士会)

- ・実際に運用されている先生方のご意見で検討頂けると幸いです。

## **[2]** バリエーション分析方法、データ抽出についてのご提案・ご意見

(市立長浜病院)

- ・パス中止までの日数は外れ値も多いので、中央値も併記してはどうか。
- ・年単位のアウトカム評価として、バリエーションシートの返書件数も一案と思うがどうか。またシートの記載方法等が、医療者向けの説明書等に少し追記してあるとありがたい。
- ・バリエーションシート記載時に該当項目に迷うことがある。特に①転居、②サーベイランスより他疾患の治療や療養が優先される場合(持病でなく新たに発症した脳血管疾患や骨折等)、③術後5年以上経過しているが、最終検査が未実施の場合の3点について。①は「患者家族都合」、②は「併存疾患関連/その他」としているが、③はそのまま終了報告にするか、「職員/医療施設要因」でバリエーションとして報告にするかに迷うことがある。

(滋賀医科大学医学部附属病院)

### **[1]** と同じ

(滋賀県立総合病院)

- ・バリエーション発生時に担当医師から連携パス担当者への報告がされず現状把握に苦慮している
- ・連携パス中の患者把握がタイムリーにできていない
- ・連携先医療機関に受診されているのかどうか、「がん治療連携指導報告書」が提出されない以上現状把握ができない

(滋賀県薬剤師会)

- ・バリエーション報告様式の変更はご提案の通りで問題ないと思います。

(滋賀県歯科衛生士会)

- ・正当性の検証のため様式変更は良いと思います。

## **[3]** 新型コロナウイルスの影響について

(市立長浜病院)

- ・原則、新型コロナウイルス感染に伴う診療間隔の変更判断は医師に委ねている。事務局にも相談させていただき、今年度は電話診療等で大きく計画が外れてもやむを得ずと考え、数件あった連携先から受診間隔について問い合わせを受けた際もその旨、返答した。医師も落ち着いている方には、意図して受診間隔を延ばすことをしていた。学会等の判断に沿った対応になると思うが、この先対応期間がさらに延びると他施設でも迷われることがあると思うため、部会として対応等の指針について何か文書等作成いただけるとありがたい。

・当院の場合、パス対象者は週単位で外来での受診確認等を外来スタッフに一部業務を委譲しながら行っているが、コロナの期間が長引くほど、サーベイランス終了のタイミングも施設差が出てくると思うので、継続管理をどの程度行うことがよいのか、また他施設の担当の方から意見をいただける場があるとありがたい。

(滋賀県立総合病院)

・新型コロナウイルス感染症関連の受診患者対応で医師の業務が煩雑化し、パス導入への意識も低下したように感じる

・入院患者数減少に伴い、パス導入患者も減少した

・新型コロナウイルス感染対策をきっかけにインターネットが様々な目的で有効活用されている中、県下の病院担当医と開業医との連携においても活用できる手段はないの(患者が私のカルテの持参・提出がされない場合も多いのではないかと推察する)

(市立大津市民病院)

・当院ではもともとがんパスの使用件数が少なかったもので、新型コロナウイルスの影響については評価いたしかねます。

(東近江健康福祉事務所)

・保健所では新型コロナウイルス感染症対策に追われており、他事業については手が回らない状況である。

(滋賀県薬剤師会)

薬剤師の関わる業務としましては外来・在宅ともに新型コロナによる多大なる影響をうけております。

がん地域連携パスへの直接の影響について明確に申し上げることができませんが、少なくとも新型コロナの流行により他の疾患と同様術後フォローや計画途中の段階での受診控えや計画の変更等影響があると考えられるため、連携パスにおいても中止に至っているケースがあるのではないのでしょうか。

(滋賀県歯科衛生士会)

・このコロナ禍でがん患者さんも先生方も大変なご心労や治療が続いていることと存じます。実際にパスの運営にどのような影響があったのか教えて頂けると幸いです。

#### 【その他】

(滋賀医科大学医学部附属病院)

・現時点では、様々な要因によって進行期がん患者のパスの導入はできていません。

ただ、これからの地域包括ケアシステムの推進をがん診療分野においてもすすめていくためには、進行・再発事例の進行期がんのパスを広げていく必要があるかと思えます。

そのため、進行期がんパスを導入して病院と連携医療機関が協働している例を共有できる機会をつくっていくのはいかがでしょうか。(地域連携部会主催の教育講演の開催など)

・本年度のアクションプランに、地域連携パスの見直し(5大がんパス、緩和ケアパスの統合)(前立腺がんパス見直し)が挙がっています。またその実施計画として、5大がん

	<p>パスWGを2回開催、前立腺がんパスWGを1回開催、緩和ケアパスWGを1回開催が年間スケジュールとして計画されています。そこで、「地域連携パスの何を見直すのか」を明確にし、「その実施のため何をWGに依頼するのか（依頼しているのか）」を、部会員が理解できるようご説明いただきたいと思います。</p> <p>（滋賀県立総合病院）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県下の他医療機関のパス運用について実務者レベルでの情報交換、県下医療機関で運用手順、マニュアルを共有、運用マニュアルが作成できればいいかと思う</li> </ul>
<p>そ の 他</p>	<p>なし</p>

以上のとおり報告します。

令和3年1月29日

滋賀県がん診療連携協議会 会長 様

地域連携部会 部会長 廣瀬 哲朗